

整骨科

〔時還讀我書〕近日西洋ノ外醫シ―ポルト、巧手ノ名アリテ、京寓中、醫者病者來聚テ市ヲナセシニ、東都ヨリ歸途、關驛ニテ、甲必丹ノ失足墮損セシカバ、シ―ポルト服藥數貼術ヲ盡セシニ、効アラズ、再ビ京ニ入リテ、發足ノ期モ遲延シ、京醫ノ蘭ヲ唱フルモノ、日々環視スルノミニシテ、俱ニ技窮セシトコロ、青貝屋武右衛門トイヘル骨董アリテ、難波骨ツギ、山口滿二ナルモノヲ伴ヒ來リテ、診察セシメシニ、渠一診シテ、コレシキノ輕患ニ、イカナレバ數日治功ナキ事ゾ、某ガ術ヲ行ヒタランニハ、三日ニシテ全癒ナサシメント、大言ヲ吐タリシカバ、サラバトテ、蘭人モ治ヲ乞シニ、果シテ其言ノ如ク、三日中ニシテ、脱然ト治癒セシメ、亟ニ崎嶽ニ還ルコトヲ得セシメタリ、中略滿二ノ技、外國人ノ眼ヲ驚セシ、實ニ愉快トイフベシ、此丙戌○年○文政ノ春ノコトニテアリキ、

〔拳法圖解〕天神眞揚流 當流ノ祖ハ、磯又右衛門ト云フ、○門人本間氏其宗ヲ得、其門ニ香川爲春トイフ者、其奥旨ヲ究メ、安政年間舊江戸麴町五丁目ニ住シ、特ニ接骨ノ妙ヲ得、

〔政事要略九十五至要雜事〕又○醫令云、醫生既讀諸經、乃分業教習、○中二人學耳、目、口齒、各專其業、

〔異疾草紙〕ちかごろ、やまとのくになるおとこ、めのすこしみえぬことのありけるを、なげきゐたるほどに、かどよりおとこひとりいきたり、あれはなにも、のぞといへば、我は目のやまひをつくろふくすしなりと云、いゑあるじまかるべき神佛のたすけかとおもひて、よびいれつ、このおとこめをひきあけて、よく見えて、針してよかるべしとて、針をたつ、いまはよくなりなむとていで、いぬ、その、ちは、いよく見えざりけり、ついにかためはつぶれはてにけり、

眼科諸流

〔本朝醫考〕目醫

本朝目醫其家傳者多、特推馬島良峯、以爲勝、馬島者尾州馬島藏南坊僧、遇異人傳奇方、四方患眼者悉到彼寺求療養、今直呼稱馬島城州良峯成就坊僧亦如此、其外佐々木青木須磨穂積等作一家者不爲不多矣、